Ⅲ　ヒアリング調査からみた経営概況

概　　況

1　製造業

一般機械	：おおむね横ばいで推移
輸送用機械器具(自動車部品)	：おおむね横ばいで推移
電気機械器具	：おおむね横ばいで推移
金属製品	：おおむね横ばいで推移
プラスチック製品	：おおむね横ばいで推移
印刷・出版	：厳しい状況が続いている
銑鉄鋳物（川口）	：上向く動きに一服感がみられる

2　小売業

大型小売店	
百貨店	：明るい兆しはあるものの、一部で弱い動き
スーパー（総合・ディスカウント）	：弱い動きがみられる
商店街	：厳しい状況が続いている

3　情報サービス業

ソフトウェア業	：上向いている

1　製造業

(1) 一般機械　　『おおむね横ばいで推移』

【業界の動向】県内の一般機械の鉱工業生産指数は、平成１７年９月以降、平成１８年３月を除き前年同月を上回って推移していたが、直近の１０月は前年同月と比べると７.３％下回った。

【景況感】「一時より落ちるが好況である」との声も聞かれたが、「引き合いは少なくなってきているが、ある程度の仕事量は確保されており、普通である」や「増収であっても減益のところが多い」など、「普通である」とする企業が多く、おおむね横ばいとなっている。

【売上げ】「増えた」とする企業と「減った」とする企業に二分された。増えた企業からは、「大型及び中型の機械部品加工が良い」との声が聞かれ、減った企業からは、「夏くらいから伸び悩み、主力部門の売上げが戻らない」との声が聞かれた。

【受注単価】「厳しいままほとんど変わらない」とする企業もあったが、「下がった」とする企業が多かった。「ＯＡ機器や家電の部品などは海外調達への切り替えを材料に、価格切り下げの話が来ている」などの声が聞かれ、厳しい状況が続いている。

【原材料価格】「上がった」とする企業と「ほとんど変わらない」とする企業に二分された。上がったとする企業からは、「ニッケルやバナジウムなどの希少金属が上がった」や「原材料価格の伸び率は低下しているが、依然増加傾向にある」などの声が聞かれた。

【採算性】「良くなった」、「ほとんど変わらない」とする企業もあったが、原材料価格の高騰や高収益部門の売上げ減少などにより「悪くなった」とする企業が多かった。赤字にはならないが、採算はあまり取れていないとする企業が多い。

【品目別の状況】「印刷機械は高止まりで好調」、「射出成形機は自動車関連で減少している」や「半導体製造装置関連は夏から生産調整が入ってきている」などの声が聞かれた。

金型の状況をみると、「トラックなどの自動車関連が減少傾向にある」や「見積合わせが多くなっており、仕事が取りづらくなっている」などの声が聞かれた。

【設備投資】生産設備の新規導入や更新の話がすべての企業から聞かれた。今後についても、ほとんどの企業で更新などを実施する予定である。

【今後の見通し】すべての企業が「先行き不透明」としている。

(2) 輸送用機械器具（自動車部品）　　『おおむね横ばいで推移』

【業界の動向】国内の四輪車生産台数は、平成１８年１１月には前年同月に比べ７.４％の増加となり、１３か月連続で前年同月を上回った。

【景況感】「良い状況が３年くらい続いている」と話す企業もあるものの、「売上げは多いが単にそれだけであり、利益という中身がない」など、ほとんどの企業が「普通である」としており、おおむね横ばいとなっている。

【売上げ】「新規に複数のラインを導入した途端、そのピークの受注があり、想定以上の売上げとなった」など、すべての企業で前年同期に比べ増加している。また、トラックについて、「内需は首都圏の排ガス規制開始以来、この数年間高い水準だったが、ここ最近減少傾向にある。しかし、海外の物流における小型トラックの普及と BRICs 諸国におけるインフラ整備により、輸出の伸びは今後も続く」との話が聞かれた。

【受注単価】「ほとんど変わらない」とする企業と「下がった」とする企業に二分された。「ほとんど変わらない」とする企業からは、「原材料価格上昇のためか、今回は顧客からコストダウン要請がなかった」との話が聞かれた。「下がった」とする企業からは、「年間を通せば想定していた程度であり、許容範囲内である」との話が聞かれた。

【原材料価格】「ニッケルの高騰でステンレスが毎月の様に上昇し、年初に比べ５０％位上がった」など、「上がった」とする企業が多かった。また、「ステンレスは、１０月分から納入を２割カットされており、やり繰りに苦慮している」と話す企業もあった。

【人件費】「受注の増加に対応するため、増員した」や「賞与を前年より増やした」ことなどから、「増えた」とする企業が多かった。

【採算性】「良くなった」とする企業もあったが、「悪くなった」とする企業の方が多かった。「悪くなった」とする企業からは、「原材料価格の上昇で、どんどん粗利部分が圧縮している」や「利益率は低下したが、全体の利益額は売上げ増でカバーしている」などの話が聞かれた。

【設備投資】当期はすべての企業で実施しており、「新規設備の導入と老朽分の更新をした」や「期初計画の範囲内で実施しており、当期は増産対応の設備の導入をした」などの話が聞かれた。

【採用】「派遣社員の中から、２人正社員に採用した。さらに候補者が２人いる」との話が聞かれるなど、複数の企業で派遣社員の中から正社員を採用する動きが定着しつつある。

【今後の見通し】「来年も仕事はあるので、原材料価格の動向次第である」とみる企業もあるものの、「海外の需要が拡大しており、良い方向に向かう」とする企業が増えている。

(3) 電気機械器具　　『おおむね横ばいで推移』

【業界の動向】県内の電気機械の鉱工業生産指数は、平成１８年８月、９月と２か月連続で前年同月を下回ったが、直近の１０月は前年同月と比べると９.１％上回った。

【景況感】「ここ数年コストや人員を削減してきている上、業界全体でもかなり仕事があるので良いはずなのに、受注単価の下落が大きいため一向に良くならない」など、すべての企業が「あまり良くない」としており、おおむね横ばいで推移している。

【売上げ】企業によって様々であり、「製品価格が落ちる分を数量でカバーしており、前年同期比では増えている」、「順調であり、ここしばらく変化ない」や「クリスマス商戦は、例年よりも落ちるのが早かった」などの声が聞かれた。

【受注単価】すべての企業が「下がった」としており、「熾烈な受注競争が続いており、相変わらず下がる傾向にある」、「原材料価格は上がっているが、それに見合った単価にしてもらえない」や「ＩＣは小さくなるほど単価が下がってしまう」など、厳しい状況が続いている。

【原材料価格】「自己調達分が少ないため、ほとんど変化がない」や「すずや金などの希少金属が上昇しているが、全体でみれば落ち着いてきた」など、「ほとんど変わらない」とする企業が多かったが、「銅や石油製品などがジリ高となっており、来週から値上げすると仕入先に言われている」と話す企業もあった。

【採算性】「我々のような部品メーカーは、組立屋と材料屋の間に挟まれ大変厳しい状況である。とにかく無駄を省いていくしかない」や「受注量、受注単価ともに下がったため悪くなった」などの声が聞かれ、厳しい状況が続いている。

【品目別の状況】「携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどが引き続き好調である」、「カラープリンターは依然好調である」や「ハードディスクドライブ関連はかなり伸びている。ただ、ウィンドウズビスタ効果はすぐには現れないだろう」などの話が聞かれた。

【設備投資】「クリーンルーム化を継続している」や「設備が多種にわたるので、更新が大変である」など、当期はすべての企業が実施しており、来期についても同様に実施予定である。

【今後の見通し】「製品の『安値安定』が普通になってきており、この傾向はしばらく続くだろう」や「それほど落ち込む事はないと思うが、原材料高がどこまで影響するかわからない」など、先行きを不安視する企業が多かった。また、「今までは売上げ増を重視していたが、今後は仕事を全部見直した上で、付加価値の高いものにシフトしていく」と話す企業もあった。

(4) 金属製品　　『おおむね横ばいで推移』

【業界の動向】県内の金属製品の鉱工業生産指数は、平成１８年８月より３か月連続で前年同月を上回っている。

【景況感】「受注の好調さが利益に結びついていないため、好況とはいえない」や「普通のまま、それほど変わらない」など、すべての企業が「普通である」としており、おおむね横ばいで推移している。

【売上げ】「ほとんど変わらない」とする企業もあったが、「増えた」とする企業が多かった。「今年の後半から全体的に仕事量が増えてきている」や「遠心分離器など医療機器関連が好調で、特にヨーロッパやアジア向けの輸出が良い」などの声が聞かれた。

【受注単価】「営業が来るとコストダウンの話しかしない」など「下がった」とする企業もあったが、「下請けが忙しくなってきており、外注価格が下げられなくなっているため、受注単価も下げられなくなっている」や「既存製品の受注単価を上げたいが、交渉が難しい」など「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。

【原材料価格】「銅やニッケルが上がっている」など「上がった」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。ほとんど変わらないとする企業からも、「頭打ちであるが高止まりである」や「鉄板は高値で落ち着いている」などの声が多く聞かれ、依然厳しい状況が続いている。

【採算性】「悪かった」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。「悪かった」とする企業からも、「受注量の増加により深刻な状況には陥っていない」などの声が聞かれた。全体的に受注は増加しているものの、採算が向上するまでには至っていない企業が多い。

【品目別の状況】自動車関連、医療機器関連、半導体製造装置関連（プラズマテレビ関係など）や携帯電話の小型中継基地設備関連の受注は安定している。

【設備投資】「新工場を建設している」とする企業もあったが、多くの企業が実施しなかった。来期については、「工場の増築を予定している」や「新工場向けに機械設備を購入する」など、多くの企業で実施するとしている。

【今後の見通し】「先行き不透明」とする企業もあるが、「新規取引先から液晶・プラズマ関係の仕事が入ってきており、良くなると思う」や「今後、原材料価格の下落やエネルギーの価格安定化が予想され、全体的に良くなっていく」など、「良い方向に向かう」とする企業が多かった。

(5) プラスチック製品　　『おおむね横ばいで推移』

【業界の動向】県内のプラスチック製品の鉱工業生産指数は、平成１８年５月に１３か月ぶりに前年同月を上回った後、６月及び７月に再び下回ったが、８月以降は上回って推移している。

【景況感】「売上げは前年と同様に推移しており、普通である」や「景況は横ばいで変わらず、普通である」など、すべての企業が「普通である」としており、おおむね横ばいで推移している。

【売上げ】「前年同期と比べると減少した」とする企業が多かった。「通常の売上げを確保したが前年が良すぎた」や「得意先が、在庫を積み増ししたが計画どおりに販売できず生産調整したため、受注が減少した」などの話が聞かれた。品目別では、医療機器関連の一部と自動車関連が好調である。アミューズメント関連については、「取引先から減少すると言われていたが、それほどは落ち込まなかった」との話が聞かれた。

【原材料価格】「価格の上昇も落ち着いて、一段落といった状況にある」や「今は価格も落ち着き、値上げの話はない」など、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。「シェアを高めるためか、一部の材料業者は価格の引き下げを提示してきている」との話も聞かれた。

【受注単価】すべての企業が「ほとんど変わらない」としている。「新規受注品は、引き続いて原材料価格の上昇分を価格転嫁できた」や「継続品は、コストダウンの要請がきており、検討している」との話が聞かれた。

【採算性】「良くなった」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。「ほとんど変わらない」とする企業からは、「今後の生産性向上のために、工程管理に注力し、治具も工夫している」との話が聞かれた。「良くなった」とする企業からは、「作業効率が向上してきて良くなった」との話が聞かれた。

【設備投資】実施した企業はなかった。来期については、「容量不足に対応するためにコンプレッサーを増設する」と話す企業もあったが、実施予定のない企業が多かった。

【今後の見通し】「新製品の量産化が見込まれる」、「医療機器関連の受注がヨーロッパから入ることなどから、売上げも伸びていく」や「医療機器関連の新規受注品の生産が始まる」など、すべての企業が「良い方向に向かう」としている。

(6) 印刷・出版　　『厳しい状況が続いている』

【景況感】「売上げの減少傾向がここ何年も続いている」や「電子入札制度の影響で、大幅に単価が下がった」など、「不況である」との声が多く聞かれ、厳しい状況が続いている。

【売上げ】「今年の６月位から少し増えてきている」との声もあるものの、「仕事を取るために価格で無理をしたので、単価が下がり減った」や「１２月前半の数字が悪く、減った」などの声が聞かれ、当期も前年同期を下回った企業が多かった。

【受注単価】民間企業向けでは、「継続品はほとんど変わらない」や「大手が下請け企業を入札方式で選ぶようになって、下がった」など、様々だった。また、「価格の引き上げ交渉をしているが、受け入れてもらえない」との声もあった。

　官公庁向けでは、「３割も下がった。仕事が少ない時期なので競争が厳しい」との声が聞かれるなど、すべての企業が「下がった」と話していた。しかしながら、来期に関しては「需要期なので仕事を選べるようになる。そうなれば、価格を戻せると思う」との声もあった。

【原材料価格】印刷用紙については、「以前から値上げの話があるが、当期も上がっていない」や「製紙業界の再編やシェア争いが落ち着くまで、このままではないか」など、「ほとんど変わらない」と話す企業が多かったものの、「単価が上がっており、３月にまた上がる」と話す企業もあった。また、紙以外の原材料については、「ほとんど変わらない」や「上がっているが、影響は少ない」と話す企業が多かった。

【採算性】「ほとんど変わらない」とする企業もあるが、「売上げが減って悪くなった」と話す企業が多かった。

【個別分野の状況】商業印刷物では、「商業チラシや多色刷印刷の分野が増えている」や「金融機関のダイレクトメールや、携帯電話の加入申込書が増えている」などの声があった。事務用印刷物では、伝票について「安定している」と話す企業と「使う分だけ注文が来るようになって、受注量が減った」と話す企業があった。

【設備投資】「個人情報保護を目的として設備を導入した。来期も投資予定である」と話す企業もあるものの、ほとんどの企業では当期も実施しておらず、来期も予定していない。

【今後の見通し】「見込んでいる大きな仕事が取れたとして、やっと前年並みである」や「今は少し良いが、先のことはわからない」など、「先行き不透明」とする企業が多かった。

(7) 銑鉄鋳物（川口）　　『上向く動きに一服感がみられる』

【業界の動向】銑鉄鋳物（川口）の生産量は、平成１８年６月以降前年同月を下回って推移しており、直近の９月は前年同月と比べると１.５％下回った。

【景況感】「仕事自体は忙しいが、鋳物は材料費比率が高いため原材料高の影響が大きく、景気が良いとは思えない」、「失速も停滞もしていないが、バブル期と違い景気の良さが波及してこない」や「一時ほど納期に追われる事がなくなり、忙しさが落ち着いてきた」など、すべての企業が「普通である」としており、上向く動きに一服感がみられる。

【売上げ】「好調な部門はなく、全体としては減少気味である」、「もの凄く忙しかった昨年に比べると１割減少した」や「公共事業は受注単価の下落が大きく、売上げが激減した」など、すべての企業が「減った」としている。

【受注単価】「公共事業は、落札率の低下から下請けにしわ寄せがきており、もの凄く下がった」とする企業もあったが、多くの企業が「ほとんど変わらない」としており、「原材料の上昇分くらいは上積みしたいところだが、なかなか上手くいかない」や「値下げ要請はあるが、原材料価格の高騰もあり、受けられる状況ではない」などの声が聞かれた。

【原材料価格】全体的に上昇傾向が続いており、「鉄関連は上昇しており、特にスチールスクラップは大幅に上昇している」や「金属、シリコンやマンガンなど、すべてが上昇している。鋳物は様々な材料を使用するので大変である」などの声が聞かれた。また、「一旦上がったものは、景気が下降するまで下がらないだろう」と話す企業もあった。

【採算性】「分野によっては悪くなった」や「仕事量はそこそこあるが、利益が伴わない」など、「悪くなった」とする企業が多かったが、「コストは増えているが、それなりの売上げ目標を立ててこなしているので、ほとんど変わらない」との話も聞かれた。

【個別分野の状況】「大型建設機械向けは引き続き好調だが、射出成形機関連は減少気味である」、「自動車向けはトラック関連が減っており、また建築関連の減少が大きい」や「橋梁関連の仕事は出てきたが、受注単価の下落により、あまり展望は良くない」などの話が聞かれた。

【設備投資】「フォークリフトや営業車を買い換えた」とする企業もあったが、「壊れた設備の更新のみだった」とする企業が多かった。来期については、「設備投資しても、その分を回収できない」など、「実施しない」とする企業が多かった。

【今後の見通し】「秋口までは現状が続くと思うが、それ以降はわからない」や「原材料高がどうなるかによる」など、「先行き不透明」とする企業が多かった。

2　小売業

(1) 大型小売店

百　貨　店　　**『明るい兆しはあるものの、一部で弱い動き』**

【業界の動向】商業販売統計によると県内百貨店の販売額は、既存店ベースでは平成１８年１０月には４か月ぶりに前年を下回ったものの、直近の１１月は再び上回った。全店ベースでは平成１８年９月は５か月ぶりに前年を上回ったが、１０月には再び下回り直近の１１月は前年と同じ数字だった。

【景況感】「仕掛けが売上げにつながるようになった」や「前年並みの数字が取れるようになってきた」などの話が聞かれるものの、「客の動きが悪くなってきた」との声もあり、明るい兆しはあるものの、一部で弱い動きがみられる。

【売上げ】「減った」とする店舗もあったが、「前年並み程度」とする店舗の方が多かった。

主力の衣料品・洋品雑貨では、暖冬傾向ではあるものの前年並みの売上げとなった店舗が多かった。「通常の売上げは伸びないが、衣料品の催事が良かったので、前年並みになった」、「婦人洋品雑貨では品揃えに奥行きと幅を出し、紳士洋品雑貨では重点アイテムを強化したので、それぞれ売上げが伸びた」や「ベターゾーン（一般的な価格よりも一段ランクアップした価格帯）や大きいサイズ・小さいサイズなどは安定しているが、中心となるボリュームゾーン（一般的な価格帯）が良くない」など、様々な話が聞かれた。

食料品は堅調とする店舗が多く、「クリスマスケーキやおせちの予約が伸びている」との話が聞かれた。

お歳暮では、「店頭とネット注文を合わせると、前年と同じ位だ」や「わずかに客数が増えている」など、前年並みの店舗が多い。

近隣に出店した郊外型大型店の影響について、「出店以降、食料品の売上げが減ってきている」や「客数が伸びないのは、その影響ではないか」などの話が聞かれた

【採算性】経費削減などにより、「良くなった」とする店舗が多かった。

【設備投資】当期に実施した店舗はなかった。来期に計画している店舗もなかったが、「今後検討していく」との声が多く聞かれた。

【今後の見通し】「売上げの安定傾向は続くと思う」と見込む店舗もあれば、「何とか売上げで前年を超えるようにしていきたい」と話す店舗もあった。

スーパー（総合・ディスカウント）　　**『弱い動きがみられる』**

【業界の動向】商業販売統計によると県内スーパーの販売額は、既存店ベースでは平成１７年１２月に２１か月ぶりに前年同月を上回ったが、平成１８年１月からは下回って推移している。全店ベースでは平成１７年３月以降１９か月連続で上回った後、１０月は下回ったものの、直近の１１月は再び上回った。

【景況感】「予算はクリアした」とする店舗もあったが、「景気の良さが小売業まで及んでいない」や「デフレは止まっておらず、消費者の財布のひもも緩んでいる状況ではない」などとする店舗が多く、弱い動きがみられる。

【売上げ】すべての店舗で「減った」としている。

大型店や専門店などの競合店の出店や暖冬の影響により、一般及びスポーツ衣料や家電製品などで厳しい状況となっている店舗が多かった。そのため、「家電については撤退する方向」とする店舗があった。

季節商材では「暖かかったため、１０月は厳しかったが、１１月に入って暖房機器が売れてきた」や「オイルヒーターが売れている」などの話が聞かれた。

食料品については、「生鮮３品、納豆、豆腐、牛乳などのチルドや菓子などは安定している」や「お歳暮などのギフトは購入目的が多様化しており、好調だった」などの声が聞かれ、堅調に推移している。

その他の商品では、「キャリーバックなどの旅行関連商品は順調に推移している」、「カー用品は車の標準装備が充実し、厳しくなっている」や「ブランド商品はバッグなどを中心に品揃えを強化したため、売れた」などの声が聞かれた。

【採算性】すべての店舗で「良くなった」としている。「よく売れて儲かる商品を週単位、日単位で集計し管理している」、「特売などの一見の顧客を集める商売を極力抑えた」や「利益率の高いプライベートブランド商品を増やしている」などの声が聞かれた。

【設備投資】当期に実施した店舗はなかった。来期については、「売場の改装を予定している」や「万引き防止の監視装置を導入する」などの声が聞かれた。

【今後の見通し】「悪くはならないと思う」との声も聞かれたが、「先行き不透明」とする店舗が多かった。

(2) 商店街　　『厳しい状況が続いている』

【業界の動向】平成１８年１２月の内閣府の月例経済報告は、個人消費について、「おおむね横ばいとなっている」と総括している。

【景況感】「不況のままで変化はない」や「１０月はまあまあだったが、１１月に下がり、１２月商戦はお歳暮も含め盛り上がっていない」などの声が聞かれ、厳しい状況が続いている。

【来街者数】「例年並みである」、「通りを歩いている人数は変わらないが、ウインドウショッピングが多く、買い物には慎重である」や「この冬始めたイルミネーションの効果か、１２月に入って夜間は少し増えている」など、商店街によってまちまちであった。

【売上げ】「６月に違法駐車取締り強化が始まって以来ずっと悪く、なかなか良くならない」や「各商店主は『悪い悪い』と口を揃えて言っている」など、どこも苦戦している。「以前から営業している地元商店は、通っている人の年齢層と扱っている商材がずれており、厳しい状況である」や「以前からＤＭ（ダイレクトメール）で色々仕掛けているが、１年くらい前からセールをしても急に売れなくなり、ＤＭ代も出なくなってきている。インターネットショップなどで安いものがいつでも買えるようになって、購買の仕方が変わってきているようだ」などの話も聞かれた。そのような中で、「１２月に入って夜間の売上げが増えつつあるが、イルミネーションの効果だと思う」と話す店舗もあった。

【元気なお店】「ドラッグストアや若者向けの古着屋が元気である」との話が聞かれた。また、「新規に出店するのは飲食店のテナントが多い」や「男性も行くようになったからか、相変わらず美容室が増えている」などの話も聞かれた。

【設備投資】当期は実施している商店街はなかったが、「防犯は明るいまちづくりから。来年度事業で、整備から１０年経った街路灯の更新の計画を進める」と話す商店街もあった。

【今後の見通し】「なかなか良くはならない。このまましばらくいくのではないか」など、当面はこのままの状態が続くとみている商店街が多かった。

3　情報サービス業（ソフトウェア業）　　『上向いている』

【業界の動向】経済産業省の特定サービス産業動態統計調査によると、情報サービス業の売上高は、平成１８年９月に９か月ぶりに前年同期を下回った後、平成１８年１０月以降は２か月連続で前年同期を上回っている。

【景況感】「引き合いの強さから好況といえる」や「景況感はまだ普通の範疇であるが、残業が増えてきている」など、上向いている。

【売上げ】「引き合いが強い」との声が多く聞かれ、「増えた」や「どちらかというと増えている」とする企業が多かった。

【受注単価】「業界全体のＳＥ不足のため、少しずつだが上向きの感覚である」や「システム開発は多少上がってきている」などの声が聞かれ、上昇傾向にある。

【人件費】「人数が増えたことにより、増えた」とする企業が多くみられた。

【採算性】「ほとんど変わらない」とする企業が多くみられた。

【個別分野の状況】システム開発の関連について取引先別の動向を聞いたところ、まず製造業については、「輸送や事務機器などを中心に情報投資が活発である」、「ここ最近は大手に限らず中小も色々と情報投資を始めている」や「組込ソフトウェア系は引き合いが強い」などの話が聞かれた。次いで金融業については、「大手は皆良い」や「受注しようと思えばいくらでも仕事はある。ただ技術者の不足により受注できない」などの話が聞かれた。

　データ入力については、「受注が増えており、関連要員はほぼすべての土曜日に休日出勤して対応している。ただ、データ入力を取り扱う企業が減り、残った企業に仕事が集まってきているためで、需要増ではないようだ」との話が聞かれた。

【設備投資】ほとんどの企業が実施しておらず、今後の予定もなかった。

【採用】「業界全体で、採用意欲は旺盛である」との話が聞かれるなど、すべての企業で新規学卒者の採用活動を行っている。

【その他】業界では、個人情報やセキュリティなどの各種認証を取得する企業が多くなっているが、どこの企業も更新に苦労している。そのような中、「ある認証を取得しており、最近更新した。単に保持することではなくセキュリティを意識した風土づくりを目的としていたが、更新にあたってはテクニックや文書合わせが中心となってしまっている。そこで、企業体質を強くすることを目的として、他の認証をこれから取得する予定である」との話が聞かれた。

【今後の見通し】「バブル期と同じ失敗はしないと思う」や「良い方向に向かうよう努力している」など、多くの企業が「良い方向に向かう」とみている。